



連合駿台会報

No.313 平成26年1月15日発行
 発行・編集 連合駿台会

発行人 広報委員長・齋藤柳光
 編集人 事務局・矢嶋まゆ子
 〒101-0052千代田区神田小川町三十二
 明治大学「紫紺館」内
 電話 (〇三) 三二九六一四七四七
 印刷 有限会社 美創

大学の歩みに 更なる貢献を

連合駿台会
会長
山口政廣



新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。旧年中は、当会の運営・活動に對しましてご理解、ご協力を賜わり、厚く御礼申し上げます。

昨年の金融・証券市場は、歴史的な株高・円安となりました。大規模な金融緩和などで日本が長引くデフレから脱する、との期待が浮上したからです。しかし、六月に日本再興戦略が打ち出された際の株価下落は、政策の中身が期待に届かないとき、市場の反応が、いかに厳しいかを示しました。

景気回復局面の特徴は、非製造業の回復が先行しましたが、円安が持つ負の側面であるエネルギー・食品などの輸入価格の上昇を通じ、企業や家計の負担が増えると同時に、

今春の消費税率八%への引上げによる個人消費の弱まりが予想され、株高・円安に依存しない自律的な回復に転換できるかが、課題となります。今年は、日本経済にとって、正念場の一年となりそうです。

さて、少子化、情報化、グローバル化の波が押し寄せる中、社会が望む大学像は、大きく変化しました。大学は、これまで以上に教育、研究と経営の質が問われております。これらを背景に母校は、社会に有為な人材を育成・排出し、世界に貢献できる大学、時代をリードする大学を目指し、更なる改革に取り組んでおります。

当会は、政・経済界、学界、法曹界などあらゆる分野で、堅実に実績を積み重ねた〇

Bが結束して活動し、大学の目指す「世界に誇れる大学」への歩みを支援しております。しかし、時代の要請に照らして今後の十年間を考えますと、この歩みを速めることが求められます。大学側との情報共有、意見支援を通じて、諸課題を整理・統合し、当会で取り組める課題を明確にして、支援・協力したいと思えます。

幸いにも当会からは、大学の審議機関である評議員会に、多数の評議員が選ばれております。変化の激しい大学環境の中だからこそ、皆さんが各分野で培われた実績と経験・見識を生かした意見交換を活発にすれば、諸課題の解決に貢献できると確信しております。

当会も、各委員会・運営委員会・正副会長会のご努力により、会員の増強も図られ、諸活動も従来になく活発なものとなってまいりました。当会の前身である「茗水クラブ」が発足して、六十年が経過しました。還暦を迎えたことを機に原点に立ち返って、高い志を持つ集団として、大所高所から大学を支援するよう、心を新たにしたいものです。

当会が、大学は元より、関係団体からも、高い評価が得られるよう、皆様の更なるご理解とご支援、ご協力をお願いいたします。

結びにあたり、皆様のご健康ご多幸を、心から祈念し、ご挨拶といたします。



明治大学の永続的な発展のために

学校法人明治大学
理事長
日高憲三



謹んで新春のご挨拶を申し上げます。連合駿台会の皆様には、日ごろから、明治大学へのご支援、ご協力を賜わり、心から御礼申し上げます。

さて、二〇一三年は、グローバル時代の到来をより強く感じる年でした。現在、大学は、国や企業から「グローバル人材の育成」という大きな、そして非常に重い使命を課せられています。校友、学生父母をはじめ本学に深いかかわりをお持ちの方々とお会いすると、皆様からの大学への期待をひしひしと感じさせられるとともに、明治愛に満ち溢れた叱咤激励をいただくことも数多くあります。明治大学は、皆様の厚いご期待に応えるべく、中野キャンパス及び総合数理学部の開校、グローバルフロント及びアセンセンタールの竣工、学校法人国際大学との系列法人化協定の締結といった、新たな事業展開や、教育・研究環境の整備を行いました。グローバル化の波は、教育、研究、そして経営に今後ますます影響を及ぼすでしょうが、世界に誇れる大学となるために、怯むことなく「前

へ、そして未来へ」と、大学運営に取り組んでまいります。

さて、十年一昔という言葉がありますが、十年前の二〇〇四年。本学は、情報コミュニケーション学部や、法科大学院等の専門職大学院を設置し、以来本年まで、三学部八研究科を開設しました。また、この十年間で、中野キャンパス開校、黒川農場のオープン、付属高等学校・中学校の調布移転など、社会の変化とともに、明治大学も大きく変化しました。しかし、今後の十年間は、さらなる変化が待っており、大学の存在意義が問われる時代を迎えるだろうと予想しています。

私は、明治大学の永続的な発展には、より一層、教育・研究の充実を図る以外の方策はない、と強い決意を持っています。学校法人明治大学寄附行為第一条に「この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、建学の精神に基づき、学校を設置して教育・研究を行うことを目的とする。」と規定されていますが、先行き不透明な時代、困難な時代だからこそ、原点に立ち返らなくてはならないと考

えます。魅力ある授業や教育プログラム。企業や社会が関心を抱く先端研究。そして、個性溢れる学生や教職員、卒業生。本学が有する知の財産、有形無形のコンテンツを世界に発信し、社会に必要とされる大学でなくてはなりません。

そこで、私たちは、財政健全化、中期計画策定、制度改革等の諸課題に真摯に取り組む、ガバナンスの強化に努めます。そして、グローバル時代に耐えうる柔軟でしなやかな組織を構築し、教育・研究環境を整備します。いずれも重要かつ困難な課題ですが、これらの解決なくして、明治大学の永続的な発展はありません。連合駿台会の皆様におかれましても、今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、新しい年の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



新年のご挨拶

学長就任後二回目の新年を迎えました。謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

十八歳人口の減少が進む中、大学はまさに冬の時代を迎え、その中で耐えうるための明治大学ならではの個性化に挑戦し続けています。昨年は、中野キャンパスを開設し、国際化・先端研究・社会連携の拠点としての完全な機能発揮に向けて順調なスタートを切りました。また、駿河台キャンパスでは「グローバルフロント」が竣工し、人文社会系の大学院、研究・知財戦略機構、国際連携機構が移転し稼働を開始しました。いずれも本学の新しい駆動軸として、大いに推進力を発揮することが期待されます。研究面では新たに、文部科学省・科学技術振興機構の「革新的イノベーション創出プログラム（センタール・オブ・イノベーション COI STREAM）」に応募し、COI-T（トライアル）拠点として採択されました。明治大学が中核機関、その他三大学がサテライト機関となります。二年後のCOI採択に向けて先端的な研究を支援して参ります。

そして今後、さらに厳しさを増す環境下でたくましく発展を遂げていくためには、ここにとどまらず更なる改革が求められています。本学の個性化をさらに際立たせる、明治の「教育力」に磨きをかける必要があります。教育の内部質保証をシステム化するとともに、国内のみならず、海外のトップスクールに肩を並べる、国際基準の内部質保証を確立し、システムとして組み上げることが急務です。

このためには、現在抱えている学術的課題に対して、^{びま}弥縫的な修正を加えるだけでは事足りないことは言うまでもありません。教務部のスタッフは約一年半をかけて構想を練り上げ、具体化に向けたプランを総合的教育改革として取りまとめました。

今こそ、未来の持続可能性に向けて、抜本的改革に着手する時期であると考えます。学長のもと全力を挙げた取組みに、皆さまのご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

また、本学は「就職の明治」と評されて

明治大学
学長
福宮賢一



参りましたが、昨秋に民間調査会社がアンケート調査を実施した「進路指導教諭」に聞いた就職に力を入れている大学ランキング」においても、四年連続で第一位に選ばれました。多数の学生を抱える本学が、きめ細やかな就職支援を行っていることが評価された結果と思われませんが、時代は今なお就職難と呼ばれる状況にあります。連合駿台会の皆様におかれましては、学生達の夢の実現のため、これまでも増してご支援ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

結びにあたり、連合駿台会の益々のご発展、さらには会員の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。新年の挨拶にかえさせていただきます。



謹賀新年



税理士法人あい&ゆう税務会計事務所

代表社員 石橋良一

〒142-0042 品川区二葉二丁目四十九番一〇一
TEL 三七八三二一七
FAX 三七八三二一七五

三八五流通株式会社

常務取締役 泉山和久

〒039-1189 青森県八戸市長苗代上中坪三五番一
TEL 〇二七八二二七四一四一
FAX 〇二七八二二七一五〇九

前田道路株式会社

代表取締役 磯昭男

〒141-8665 品川区大崎一丁目一三
TEL 五五八七〇〇一
FAX 五五八七〇〇四

株式会社チュチュアンナ

代表取締役 上田利昭

〒545-0001 大阪市阿倍野区天王寺町北二丁目三
TEL 〇六六七七三二一五
FAX 〇六六七四一九八六〇

小田急不動産株式会社

取締役仲介 宇敷和章

〒151-0061 渋谷区初台一丁目四七番一
TEL 三三七〇一一一六
FAX 三三七〇一一二四九

株式会社プラム社

代表取締役 宇田川雄弘

〒179-0085 練馬区早宮三丁目七一四
ファミリエビルF
TEL 三九九三二五三八一
FAX 三九九三二五三八三

株式会社アヅマ

取締役会長 内田八郎

〒272-0823 千葉県市川市東富野二丁目一〇一〇四
TEL 〇四七二二三三六〇四九四
(FAX共用)

株式会社藤枝江崎書店・藤枝江崎新聞店

代表取締役 江崎友次郎

〒426-0025 静岡県藤枝市藤枝一丁目四一
TEL 〇五四一六四四一六〇
FAX 〇五四一六四四一五二九〇

ベップ・メイツ株式会社

代表取締役 大前実之

〒103-0011 中央区日本橋大伝馬町一丁目一〇一四F
TEL 三六六三三八八二七
FAX 三六六三三八八二八

安全と信頼の警備
タイヨー株式会社

最高顧問 大村託現

〒124-0024 葛飾区新小岩一丁目五七番三
TEL 五六六二一三三三三
FAX 五六六二一三三三三

T C I株式会社

代表取締役 塚昭二

〒150-0011 渋谷区東二丁目二七番一〇
TEL 五四六七〇〇三六
FAX 五四六七九三三七
E-mail:shojak2@tc-i.co.jp

株式会社新都心エージェンシー

代表取締役 安達明正

〒160-0023 新宿区西新宿六番一六番一三
新宿国際ビルディング新館八F
TEL 三三四五七六八二
FAX 五三三三二七七六五

足立会計事務所

所長・足立吉松

〒410-0832 静岡県沼津市御幸町二丁目一三〇
TEL 〇五五一九三一六三九一
FAX 〇五五一九三四一〇二二五

株式会社エービーコーポレーション

代表取締役 阿部倫明

〒980-0004 仙台市青葉区宮町三番一八番三三
TEL 〇二二二二七〇〇三三
FAX 〇二二二二五一一〇八一

連合駿台会 副会長

新井久晴

〒360-0833 埼玉県熊谷市広瀬八〇〇番二
TEL & FAX 〇四八一五〇七一六〇五三

株式会社三井住友銀行

常務執行役員 石井仁

〒100-0005 千代田区丸の内一丁目二二
TEL 四三三三二二六七六
FAX 四三三三二九九七九

株式会社アマダ

代表取締役社長 岡本 満夫

〒259-1196 神奈川県伊勢原市石田二〇〇
TEL 〇四六三一九六一一一
FAX 〇四六三一九六一三四〇七

富士建物管理株式会社

代表取締役 長田 宇功

〒190-0021 立川市羽衣町三一一八一
TEL 〇四二一五二四一六五一一
FAX 〇四二一五二四一六五一一五

株式会社大気社

専務執行役員 押田 裕介

〒160-6129 新宿区西新宿八一一七一
TEL 五三三八一五一一三二
FAX 五三三八一五六一二九

ハミルトン株式会社

代表取締役 落合 由行

〒279-0025 千葉県浦安市鉄鋼通り二一一一八
TEL 〇四七一三八二一一八三三
FAX 〇四七一三八二一一八三三
<http://www.hamilton-ship.co.jp>

株式会社聖和

代表取締役社長 小野 寺弘三

〒533-0033 大阪市東淀川区東中島一一一八一五
TEL 〇六一六八一五一八〇〇八
FAX 〇六一六八一五一八〇〇一三

新菱冷熱工業株式会社

代表取締役社長 加賀 美猛

〒160-8510 新宿区四谷二一一四
TEL 三三五七二二一五一
FAX 三三五七二四九一四

株式会社カナエ

代表取締役社長 金子 圭太

〒105-0013 港区浜松町二一一〇一二
TEL 三三三二一五四一〇
FAX 三三三七一六六六八

株式会社アクト・キャリアキユープ

会長 荻部 彰夫

〒104-0061 中央区銀座一四一四一五
TEL 三五六二一六六一
FAX 三五六二一六六一

ベアリング・フライベート・エキイティ・アジア株式会社

代表取締役 古賀 慎一郎

〒101-0047 千代田区内神田一八一八二
TEL 五二八三三七一六一
FAX 五二八三三七一六一

株式会社スヴェンソン

代表取締役社長 兒玉 圭司

〒107-0052 港区赤坂一八九一一三
TEL 三五八六一〇〇一
FAX 三五〇三二五七九七

金印株式会社

代表取締役社長 小林 一光

〒454-8526 名古屋市中川区八幡本通二一六一
TEL 〇五二一三六一一三二二
FAX 〇五二一三六一一三四四四

小山修平公認会計士事務所

代表社員 小山 修

〒342-0056 埼玉県吉川市大字平沼二六三
TEL 〇四八一九八二一〇三三六
FAX 〇四八一九八二一〇三三三九



東神興業株式会社グループ

会長 根田 哲雄

〒167-0043 杉並区上荻三一一九一五
TEL 三三九五一五六九九

明治大学マスコミクラブ

常任顧問 齊藤 柳光

〒330-0855 さいたま市大宮区上小町九四五
TEL 〇四八一六四四一〇〇八五
FAX 〇四八一六四四一〇三〇六

株式会社ザイナス

代表取締役社長 坂田 英夫

〒103-0027 中央区日本橋三一一五一三
TEL 三三七五一一〇八〇八
FAX 三二七五一一〇八〇八

総合物流をはじめとする多彩なサービスを
「お客様のご満足」と「安全」をモットーに
提供し続ける会社、それがアサガミです



アサガミ株式会社

本社:東京都千代田区丸の内3-1-1
TEL (03) 6880-2200 fax (03) 6880-2230
<http://www.asagami.co.jp/>

<p>代表取締役 社長 高橋 郁夫</p> <p>〒150-0001 渋谷区神宮前一丁目八番一六 TEL 三四〇五―四〇〇― FAX 三四七九―八〇一―四 http://www.dianashoes.com</p>	<p>代表取締役 園田 英次</p> <p>〒152-3252 滋賀県湖南市岩根一丁目七番八―五五九 TEL 〇七四八―七五―八四一― FAX 〇七四八―七五―八四一― http://www.hokuto-inc.co.jp</p>	<p>代表取締役 宗 邦雄</p> <p>〒158-0093 世田谷区上野毛三丁目一六―三―四〇七 TEL 三七〇二―一六七―〇九 FAX 三七〇二―一七三―三一</p>	<p>代表取締役 杉浦 伸二</p> <p>〒103-0027 中央区日本橋三丁目八―一―〇 TEL 三二八―一〇八―〇一 FAX 三二八―一〇八―九〇</p>	<p>代表取締役 佐藤 仁</p> <p>〒144-0034 大田区西糀谷四丁目二八―一―四 TEL 三七四二―一七六―〇七 FAX 五七〇五―一八〇―九七</p>
<p>代表取締役 徳丸 平太郎</p> <p>〒335-0001 埼玉県蕨市北町三丁目一五―一四 TEL & FAX 〇四八―四四三―二〇五〇</p>	<p>代表取締役 辻嘉右工門</p> <p>〒916-0055 福井県鯖江市鯖江一丁目一〇―一五 TEL & FAX 〇七七八―五二―一八八五五 明治大学政治経済学部講師</p>	<p>代表 谷 慈義</p> <p>〒135-0004 江東区森下二丁目一九―一八 TEL 三六三―一八〇―二九 FAX 三六三―一八〇―七六 明治大学大学院特別招聘教授・校友会本部監査委員</p>	<p>代表取締役 会長 館林 精二郎</p> <p>〒110-0016 台東区台東四丁目三二―一―一 TEL 五六八八―〇一―二一 FAX 五六八八―〇一―三五</p>	<p>学校法人明治大学 常勤理事 財務担当 武田 宣夫</p> <p>〒101-8301 千代田区神田駿河台一丁目一 TEL 三二九六―四〇〇―〇一 FAX 三二九六―四三二―三八</p>
<p>代表取締役 校長 中村 裕</p> <p>〒164-8550 中野区東中野三丁目一八―一―一 TEL 五三八六―〇九四―一 FAX 三三三六―〇一七―七七</p>	<p>代表取締役 会長 長堀 守弘</p> <p>〒110-8546 台東区上野一丁目一五―一三 TEL 三八三六―四七―一三 FAX 三八三五―〇八―一五</p>	<p>代表取締役 中西 幹育</p> <p>〒424-0038 静岡市清水区西久保四六―一―三九 TEL 〇五四―三三六―一五八六八 FAX 〇五四―三三六―一五八六六</p>	<p>代表取締役 大学支援 委員長 中川 敏洋</p> <p>〒273-0005 千葉県船橋市本町六丁目三―一―四四 TEL 〇九〇―四四二―三―六七二―三</p>	<p>代表取締役 長岡 信裕</p> <p>〒110-0005 台東区上野二丁目一八―一―〇 TEL 三八三四―一六五―四一 FAX 三八三四―一四五―〇</p>

船用照明器具・船用配線器具・船用信号器具・船用配電盤
ヘリコプタ着船援助器具・高耐水性照明器具
ISO 9001:2008認証工場

— 信頼と実績に応え、未来に挑戦する集団 —

 **大石電機工業株式会社**

代表取締役社長 **大石 哲也** 昭和63年工学部卒業
〒140-0011 東京都品川区東大井2-17-9
TEL 03-3761-2166 (代表)・FAX 03-3761-4851
<http://www.ohishi-denki.co.jp>

株式会社早野組

営業本部
顧問
中村 豊
〒400-0807 甲府市東光寺一丁目四一〇
TEL 〇五五二二二二八六八六
FAX 〇五二二二二七六六六五

株式会社ディスコ

代表取締役
社長
夏井 丈俊
〒112-8515 文京区後楽二丁目一五〇一
TEL 五八〇四一五五〇〇
FAX 五八〇四一五九一九

株式会社ナミキ

代表取締役
会長
並木 洋一
〒175-0094 板橋区成増三丁目二二一
TEL 三九三九一〇〇二八
FAX 三九七五〇〇〇五六

西山商事株式会社

代表取締役
会長
西山 武夫
〒201-0004 狛江市岩戸北四一九一〇二
TEL 三三八〇一四二二〇
FAX 三三八〇一四三六五

つばさ法律事務所

弁護士 一宮 充子
弁護士 一宮 忠
〒101-0047 千代田区内神田一丁目一
TEL 三三九五二五二五
FAX 三三九五二五二八

学校法人明治大学

常勤理事
経営企画担当
橋口 隆二
〒101-8301 千代田区神田駿河台一丁目一
TEL 三三九六一四〇〇〇
FAX 三三九六一四三二八

株式会社富士設備

監査役
原田 榮
〒161-0031 新宿区西落合四丁目七一四
TEL&FAX 三九五二二二八五九

西武産業株式会社

代表取締役
社長
樋口 郁夫
〒101-0046 千代田区神田多町二丁目七
TEL 五二〇七七七五五
FAX 五二〇七七七五七

学校法人明治大学

理事長
日高 憲三
〒101-8301 千代田区神田駿河台一丁目一
TEL 三三九六一四〇〇〇
FAX 三三九六一四三二八

フジ企画株式会社

代表取締役
社長
藤代 耕一
〒221-0021 横浜市神奈川区子安通一丁目二三三六
TEL 〇四五二四三三三〇一〇
FAX 〇四五二四三三三〇六〇

メトロ電気株式会社

代表取締役
会長
藤巻 伴英
〒101-0063 千代田区神田淡路町一丁目一九一四
TEL 三三五三三三〇三六
FAX 三三五五一三三九四

松商学園高等学校 松本大学
松本大学松商短期大学部 松本秀峰中等教育学校

理事長
藤原 一二
〒390-0303 長野県松本市浅間温泉二丁目一四一
TEL 〇二六三一四六一〇五五七

弁護士
堀越 孝

本間・北本総合事務所
税理士
本間 美邦
〒102-0083 千代田区麹町四丁目三一五
TEL 三三六五二一五六一
FAX 三三六五二一五〇七

NPO法人みなみ

理事
松崎 優子
〒279-0011 千葉県浦安市美浜三丁目一九一四
TEL 〇四七二三五二一六八六二
FAX 〇四七二三八一一五五〇六



『防水と屋上を総合的にプロデュースする』

総合防水材料メーカー

日新工業株式会社

〒120-0025 東京都足立区千住東2丁目23番4号

TEL 03-3882-2424

代表取締役社長 相臺 公豊

専務取締役 相臺 志浩



ミズ太郎

高野山真言宗妙智山歆成院名誉住職
宗教法人 大倉山アソカ幼稚園園長
摩尼和夫
(僧名之 法)
〒222-0037 横浜市港北区大倉山二一八―七
TEL 〇四五―五三二―二〇五四
FAX 〇四五―五三一―四一四

岡谷電機産業株式会社
相取締役
丸山律夫
〒158-8543 世田谷区等々力六―一六―九
TEL 四五四四―七〇〇七
FAX 四五四四―七〇〇七

エフ株式会社
代表取締役
宮下隆
〒170-0005 豊島区南大塚三―三二―一〇
TEL 五九五〇―六六五一
FAX 五九五〇―六六五二

株式会社内田洋行
相談役
向井眞一
〒104-8282 中央区新川二―四―七
TEL 三五五五―四〇〇一
FAX 三五五五―四六二〇

株式会社ダイニチ
代表取締役
六井元一
〒279-002 千葉県浦安市北栄一―一六―三
DNアラザビル
TEL 〇四七―三五四―〇二二三
FAX 〇四七―三五四―二四二五
<http://www.dainichi.co.jp>

株式会社デザインの森
代表取締役
木林 一朗
〒231-0005 横浜市中区本町六―五二
横浜エクセレントVII・五F
TEL 〇四五―二三八―二二五〇
FAX 〇四五―二三八―二二五〇
<http://www.demori.co.jp>
E-mail:imori@td5.so-net.ne.jp

杉並交通株式会社
代表取締役
長 森 省三
〒168-0072 杉並区高井戸東三―一九―一九
TEL 三三三四―四四八一
FAX 三三三四―四六四六

共同印刷株式会社
顧問
山口政廣
〒112-8501 文京区小石川四―一四―一二
TEL 三八一七―二二二二
FAX 三八一七―二二二〇

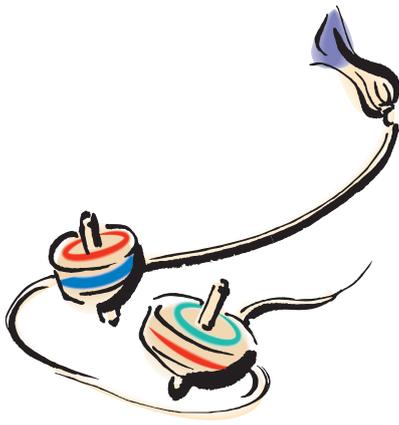
山下法律事務所
弁護士
山下喜久
〒102-0084 千代田区二番町一―一―三
相互二番町ビルディング別館五F
TEL 三三二二―一七〇五二
FAX 三三二二―一七七七八

山崎製パン株式会社
副社長
山田憲典
〒101-8585 千代田区岩本町三―一〇―一
TEL 三八六四―三二一〇
FAX 三八六四―三二〇九

株式会社日本金属工芸研究所
取締役会長
彫刻家
山田朝彦
〒113-0023 文京区向丘一―一六―一二
TEL 三八一―七七〇九
FAX 三八二―〇〇〇三

株式会社シンメイ
代表取締役
長 湯川孝則
〒226-0013 横浜市緑区寺山町八六三
TEL 〇四五―九三七―三三三二
FAX 〇四五―九三七―三三六七

あかつき税理士法人
公認会計士
税理士
吉田光一郎
〒110-0015 台東区東上野一―二五―三
小松和東上野ビル五〇二
TEL 三八三六―六八九一
FAX 三八三六―六八九三



連合駿台会十一月例会

「ワールドから見渡した世界」

サッカー解説者

スポーツジャーナリスト

中西哲生氏



連合駿台会平

成二十五年十一

月の例会を、十

一月二十日(水)

十八時半より、

明治大学「紫紺

館」三階会議室

で、中西哲生氏

をゲストスピー

カーとして開催

しました。

当日の講演に

関しましては、先方からの希望により、内容

(要旨) を載せることができませので、広

報委員の相臺志浩氏(平成九年経営卒)の例

会報告を掲載させていただきます。

*

十一月の忘年会例会では、サッカー解説

者・スポーツジャーナリストの中西哲生さん

に「ワールドから見渡した世界」という

テーマでご講演いただきました。

ワールドカップがいよいよ間近に迫っています。昨今の日本サッカーは本田圭佑選手や香川真司選手、本学OBである長友佑都選手などスター選手に事欠きません。なぜ日本サッカーが進歩したのかについてのお話しをお伺いすることができました。

驚きましたのは本田選手や香川選手、長友選手たちの選手生活は決して順風満帆ではなく、むしろ挫折を成長に変えた世代であり、本田や長友はむしろ挫折に慣れていたということでした。挫折をしますと当然ストレスがかかるわけですが、彼らは挫折やストレスを成長の糧にするのだそうです。この発想の転換は驚くべきものがあり、それは『“こうしよう”と思つたら人生はいつでも変えられる』ということにつながっているとのことでした。

つまり、勝つチームとは変え続けられる自己更新力があるかどうか、なのだそうです。そしてそのためには、「自分に向き合つて自分に疑問を持つこと」「物事を先送りしないこと」「感情のコントロールができること」を挙げておられました。変わらなことを変えようと思つても、怒りと焦りが出て、仮に怒りがパワーになつてもワールドカップでは得点できないそうです。

これはサッカーに限られる話ではなく、仕事でもついつい感情的になつてしまふことが

あります。むしろ感情をコントロールし、自分から変わっていかなければいけないと思ひ、気持ちが高ぶつたまま会場を後にしました。以上

【講師略歴】

中西哲生(なかにし・てつお)

一九六九年、愛知県生まれ。

一九九二年、同志社大学経済学部卒業後、名古屋グランパスエイトに入団。

一九九五年シーズンには、アーセン・ベンゲル監督の下で天皇杯制覇。

一九九七年、川崎フロンターレに移籍。一九九九年にはキャプテンとして、チームのJ2優勝・J1昇格に貢献する。

二〇〇〇年いっばいで、現役引退。

引退後は、スポーツジャーナリストとして活動を開始。

TBS「サンデーモーニング」、テレビ朝日「Get Sports」「ワイド!スクランブル」などのテレビ番組でコメンテーターを務めるほか、全国でサッカー教室を開催する。

TOKYO FM「中西哲生のクロノス」メインパーソナリティー。

公益財団法人日本サッカー協会・特任理事、同・環境プロジェクトリーダー。

◆広報委員会からのご案内(理事会議事録)

日時：平成二十五年十二月二十日(水)十七時
場所：明治大学「紫紺館」(二F会議室)

○新推薦会員承認の件

丸山組織・会員増強委員長から、次のような説明があった。

十月二十五日に委員会を開き、三名の方(佐藤利文氏、間瀬宏氏、長瀬幸泰氏)の審査をし、理事会の皆様には郵送でご承認を得て、ご入会いただいた。今日は、富水流孝二氏、青木幹則氏(ともに有賀隆治氏推薦)、都議会議員の小山有彦氏(河合秀二郎氏推薦)、久保田裕一氏の四名の推薦書が届いている。理事会に先立つ組織・会員増強委員会で検討した結果、小山氏については、政治色を強く持った活動を連合駿台会に持ち込むことは困る、という理由から、そのあたりの良識を確認した上でご入会を承認したい、という結果になった。これは政界に限らず、産業・経済界でも露骨な営業活動な望ましくなく、法曹界などでも宗教への強い勧誘があったはまざいと考える。久保田氏については、今年社長になられた方への勧誘活動を委員会としては続けていたが、この方は案内書を送った段階で、積極的に入会を希望されていた。ということ、この四名の方の承認を理

事にかけた。

坏専務理事より、当会では、内規により、地方議員などの入会は原則として認めないということになっているが、これは旧茗水クラブ時代の入会条件を引き継いだものであるという補足説明があり、もし小山氏の入会が承認された場合は、丸山委員長が直接ご本人とコンタクトして、先ほどの懸念事項を確認して、それが受け入れられた場合、認めるといふ形にしたいということになった。

以上の条件も含め、四人の入会を、全員異議なく承認した。また、入会基準に関しては、今後、委員会で開催時間をかけて検討しようと思っている、という報告があった。

○舟橋委員長逝去に伴う大学支援委員長の選任について

舟橋達彦大学支援委員長が、十月二十四日に六十六歳で逝去された。ご本人には、ご生存中は組織はそのままとお伝えしてあったが、ご逝去されたので、今まで代理を勤めていただいた副委員長の中川敏洋氏を委員長としたいという提案があった。これに関しては、全員一致で承認された。

○各委員長よりの報告事項

〈総務・事業委員会 河村副委員長〉

※木村委員長が出席されているが、運営委員

会に参加していた河村副委員長が報告。

十月の新たな事業として、二日に初めてビジネス勉強会を開催した。講演は谷慈義副会長にお願いし、当日は同伴も含め予想以上の五十名弱の参加者があり、質疑応答も多く成功裡に終了した。十九日には今年度の親睦会として、東京湾のナイトクルージングを開催したが、これも同伴者を含め四十名弱が参加され、委員の杉浦さんに大変ご尽力いただいた。また本日は新たな試みとして、六階の「ラウンジ明治」で、新入会員の皆様が集まっているので、理事会が終了次第、皆様にもご参加いただきたい。

今後は来年一月二十二日に駿台懇話会、三月の例会は十周年の記念例会を計画している。ビジネス勉強会は、年に二回程度、四月に第二回目を予定。詳細は追ってご連絡する。

〈大学支援委員会 中川新委員長〉

十一月の八日に、後期寄付講座を、当会会員の佐々木伸一さんを講師に開催した。昨年度から、連合駿台会学術賞・学術奨励賞の選考に当会からオブザーバー参加し始めたが、今年度は十一月十四日に選考委員会が開催され、私と伊原委員が参加した。今年度は学術賞の受賞者は該当者なし、学術奨励賞は三名となり、近々正式な発表がある。

坏専務理事より、もともと当会としては若手の学術奨励賞を多くしたいという要望を

持っており、今年度はそれが果たされたと
思っている、という補足報告があった。

〈広報委員会 齋藤委員長〉

手元に資料を配布したが、恒例になって
いる、会報新年号の名刺広告には非ご協力の
いただきたい。皆様のご意見を取り入れて、今
年からは、会社のPRのスペースも設けたの
で、それに関する説明書も同封したので読ん
でいただきたい。名刺広告の目標は八十名。
〈財務委員会 谷委員長〉

九月末における中間決算をご報告する。収
入面では昨年同時期と比べて会費納付金額が
百万円ほど増えており、納入率も約八五%と
なっている。今後再請求を出すことで予
算額は達成できると思う。支出面は予算比三
二%の進捗状況で、特別に超過している支出
はなく、いまのところ問題ないと思ってい
る。

◆新入会員ご紹介

前会までの理事会で承認され、入会され
た方を、ご紹介します。(敬称略・到着順)



おかやす たかお
岡安 高雄
昭和五十六年・工学部卒
(株)ジェイテクト・役員
愛知県岡崎市在住



さとう たかのり
佐藤 利文
昭和五十九年・工学部卒
東京工芸大学・教授
神奈川県相模原市在住



こやま ゆたか
小山 有彦
平成十一年・政経学部卒
東京都議会議員
東京都府中市在住



くぼた ひろふみ
久保田 裕一
昭和五十年・商学部卒
北海製罐(株)
代表取締役社長
神奈川県横浜市在住



あおき みきあき
青木 幹則
昭和四十九年・商学部卒
NSコーポレーション(株)
代表取締役
東京都中央区在住



とみづる こうじ
富流水 孝二
昭和四十九年・法学部卒
岡三証券(株)・理事監査部門
東京都豊島区在住

◆明大ニュース

●経営学部六十周年

国際シンポや経営者フォーラムなどを開催

経営学部は十一月三十日、「創設六十周年
記念式典・記念行事」を駿河台キャンパス・
アカデミーホールで挙行。国際シンポジウム
や記念講演、学部生による成果発表会、経営
者フォーラムなど多彩な行事が三部形式で催
され、学部のこれまでの歩みを振り返るとと
もに、世界への飛躍に向けた新たな門出を祝
した。

●ICTによる農業支援システムを実用化

明大の研究者と地域の企業が連携して研
究・開発を進め、新技術・新事業の創出を目
指す「地域産学連携研究センター」で、研究
の成果が実を結び始めている。同センターに
入居するベンチャー企業「ルートレック・
ネットワークス」は、小沢聖特任教授(黒川
農場)との共同研究で、情報通信技術(ICT
T)による農業支援システム「ZeRoagri」の
開発に成功。昨年五月末に製品化し、昨秋、
群馬県と岩手県の中規模農家へ納品した。

●革新的イノベーション創出プログラム

COIT拠点に採択

文部科学省と科学技術振興機構は十月三

十日、大型産学連携事業「革新的イノベーション」創出プログラム」(Center of Innovation、以下COI)の採択結果を発表。本学総合理学部先端メディアサイエンス学科を中心とする研究グループ(運営リーダー・荒川薫同学部教授)の「感性に基づく個別化循環型社会の創造」がCOI-T(トリアル)として採択された。本学は同課題の中核機関として、サテライト機関の慶應義塾大学・関西学院大学・山形大学や複数の企業と連携しながら研究開発を進めると同時に、二年後のCOI本採択に向けてコンセプトや要素技術の検証を行う。

●文化勲章(十一月三日、内閣府発表)

二〇一三年文化勲章を受章した明大関係者(校友)は以下のとおり。

小田剛一氏(おだ・こういち 芸名||高倉健) 一九五四年商学部卒・八十二歳

●褒章・叙勲

各県校友支部等を通じて十二月十九日まで報告された明大関係受章者は次のとおり。

▽旭日小綬章 ||堀江秀夫氏(元千葉県議会議員。一九六六年農学部卒・七十歳)

▽旭日双光章 ||伊藤祐造氏(元宮城県加美町選挙管理委員会委員長。一九五六年商学部卒・八十歳)

▽瑞宝双光章 ||阿部峻氏(元公立高等学校校長。一九六〇年文学部卒・八十歳)

▽藍綬褒章 ||佐瀬英雄氏(保護司。一九六二年法学部卒・七十五歳)

●教員人事(十一月一日付、年齢は発令時)

▽特任教授(研究・知財機構) 川口順子(かわぐち・よりこ) 前参議院議員、元外務大臣、七十二歳。任期二〇一七年三月三十一日まで。

●OB社長

▽A・Cホールディングス(建設業) ||金井 壮氏(一九八九年経営学部卒・四十七歳)

●OB市長・町長

▽兵庫県たつの市長(十月二十日投開票) 栗原一氏(無所属^①)、一九七四年法学部卒・六十三歳)

▽三重県紀北町長(十月二十七日投開票) 尾上壽一氏(無所属^②)、一九七六年政経学部卒・五十九歳)

●世界に広がる協定校

四十カ国・地域二百二十八大学と協定 明治大学は、ミネソタ州立大学モアヘツト校と大学間協力協定(授業料負担型留学)を、ペンシルベニア州立大学・教養学部、レ

ンヌ第一大学経営学院・経営学研究科と部局間協力協定を新たに締結した。協定校は四十の国と地域で、二百二十八大学(学部間協定など含む)となった。

●徳島大学・徳島県と包括協定を締結

明治大学は十一月三日、徳島大学および徳島県と、連携・協力に関する包括協定を締結した。他大学・自治体を含む包括協定は、鳥取大学・鳥取県との協定に続いて二例目。

この協定は、明治大学・徳島大学・徳島県の三者が、それぞれの持つ教育資源や知的財産などを活用した連携事業を実施し、地域社会や人材育成に貢献することを目的としている。

●JTB学生新事業提案コンテストで 明大チームが初優勝

商学部ゼミナール協議会とJTBコーポレートセールスは共同で十一月十日、早慶明の学生の企画運営による、「第三回学生新事業提案コンテストCompass2013」を駿河台キャンパス・リバティホールで開催。各大学の予選を勝ち抜いた八チームが、「旅を基軸とした無限の可能性に挑戦!!」をテーマに「旅のチカラ」を利用した新ビジネスを提案。審査員および約四百人の聴衆を前にプレゼンを行い、観光ガイドアプリとシェアバイクを連

動させた新しい旅の形の事業提案を行った明大生チーム（小出陵太さん、小川千尋さん、小椋健斗さん、甲斐萌恵さん、姜陽泰さん、高根傑さん、いずれも商3）が優勝した。

● 総会・研究大会を開催

本学を卒業した教育関係者の教育力の向上と相互交流の促進を目指す明治大学教育会は十一月十六日、駿河台キャンパス・リバティホールで第六回総会・研究大会を開催。教職課程で学ぶ学生や明大出身教育関係者ら約四百八十人が参加し、教師の在り方や学校づくりへの理解を深めた。

● 海外企業PRイベントを開催

就職キャリア支援センターは駿河台キャンパスで、十月二十九日に「フランス企業フォーラム」、十一月十二日に「ドイツ企業PRイベント」を開催。日本に拠点を置くフランスやドイツの企業が就職活動中の学生らに外資系企業の魅力をアピールした。

―フランス企業フォーラムを開催―

「第二回フランス企業フォーラム」が在日フランス商工会議所（CCIFJ）と共催で十月二十九日に開催され、明大生だけでなく他大生、留学生など約四百人が来場。同国のクリスチャン・マセ駐日大使も視察に訪れた。

―ドイツ企業PRイベント―

在日ドイツ商工会議所（AHK）と共催で十一月十二日に開催した「第一回ドイツ企業PRイベント」には、明大生のみならず他大生など一日で約百八十人が来場。このイベントには日本に拠点を置くドイツの優良企業七社（約三十人）が参加し、企業説明会や個別相談、パネルディスカッションを行った。

● 商学部 菊池ゼミ

中小企業総合展でプレゼンテーション

日本屈指のビジネスマッチングイベントである「中小企業総合展 東京二〇一三―二〇一四」が十月三十日～十一月一日に東京ビッグサイトにて開催され、会期最終日の一日、商学部の菊池一夫ゼミナールがマッチング事例のプレゼンテーションを行った。

● 政治経済学部 有志ゼミ・研究室

「英語クイズ大会」を初開催

米紙「ウォール・ストリート・ジャーナル（WSJ）」を発行するダウ・ジョーンズ社主催の「Future Leadership Program（ビジネスリーダーの育成プログラム）」に参加している、政治経済学部の有志ゼミナールと研究室は十一月九日、同プログラムでの学修成果を発揮する機会として「英語クイズ大会」を駿河台キャンパスで初開催した。

● 黒川農場 第二回「収穫祭」を開催

黒川農場で十一月九日、収穫祭が開催され、約九百人が来場した。普段は立ち入ることのできない、生産・研究エリアなども一般開放され、多くの市民が先端的農業を見学した。また、教室では黒川農場で行われている研究の紹介や、川崎市との実験的連携事業「生ごみ堆肥での作物栽培」についての報告が行われた。

● 第二百二十九回明大祭開催

明大祭は、一人ひとりの想いがつむぐ「あふれるジブナイロ」をキャッチコピーに、十一月一～三日に開催。延べ四万七千七百二十六人が来場し、学生たちの熱気あふれる企画を楽しんだ。

● シェイクスピアプロジェクト

「ヘンリー四世」を上演

明大生がシェイクスピア劇に挑む「明治大学シェイクスピアプロジェクト」の二〇一三年度公演「ヘンリー四世」が十一月八～十日の三日間、駿河台キャンパス・アカデミーホールで開催された。

● 国際シンポジウム

「北アフリカと日本の二十一世紀」を開催

軍縮平和研究所は十一月二十日、国際交

流基金と共催で国際シンポジウム「北アフリカと日本の二十一世紀 国際文化交流が築く平和な共生社会」を駿河台キャンパス・リパティホールで開催。企業関係者、研究者、学生ら約二百人が集まった。

●国際連携本部

パリで日本留学フェアを主催、大盛況

明治大学は十一月十七日、フランスのパリ第1大学（パンテオン・ソルボンヌ）の講堂で「Study in Japan Fair in Paris 2013」を開催。フランスの大学関係者、政府関係者、企業関係者、高校生・大学生等約八百人が参加した。会場の一部では長蛇の列ができるなど各ブースには多くの相談者が来訪。会場は学生らで常に溢れ、日本留学に対する関心の高さをうかがわせた。

●政府の留学促進キャンペーンに

明大生が登壇

文部科学省が主催する留学促進キャンペーン「トビタテ！留学JAPAN」のテイクオフイベントが十一月四日、羽田空港国際線ターミナルで開催され、同省の下村博文大臣やフリーアナウンサーの滝川クリステル氏、北京五輪フェンシング銀メダリストの太田雄貴氏、宇宙飛行士の野口聡一氏らと並んで、留学経験のある大学生の代表として本学

政治経済学部四年の橋本恵美さんが登壇。留学の魅力や成果をアピールした。

●世界にトビタテ！

第1回「Go Global Japan Expo」

高校生・大学生が海外留学へチャレンジする機運を盛り上げようと、第一回「Go Global Japan Expo」が十二月十五日に早稲田大学で開催され、約四千二百人が集まった。

このイベントは、文部科学省と、本学を含むグローバル人材育成推進事業の採択大学をはじめ全国四十七大学が合同で開催したイベントで、世界各国の大使館なども参加した。

●経理研究所

公認会計士試験現役合格者二十九人を表彰

金融庁の公認会計士・監査審査会は十一月十五日、二〇一三年の公認会計士試験合格者を発表した。今回の試験の最終合格者数は千百七十八人（前年千三百四十七人）で、合格率は八・九％（同七・五％）。明治大学関係者の合格者は五十四人だった（十二月十三日現在）。この発表を受け、経理研究所は十二月十三日、現役合格を果たした学生を対象とした報奨金授与式を駿河台キャンパス・岸本辰雄ホールで執り行った。

今回報奨金を授与された現役学生は、商学部十三人、政治経済学部三人、経営学部十

三人の計二十九人。このうち公認会計士養成機関である経理研究所特別会計研究室に所属する学生は二十六人。

●グローバルフロントのサイン表示が

SDA賞入選

駿河台キャンパスに二〇一三年四月にオープンしたグローバルフロントがこのほど、優れたサインデザインに贈られる「SDA賞」の公共サイン部門で、「サインデザイン入選」に輝いた。

同賞は、サインデザインの普及と啓発を図ることを目的に日本サインデザイン協会（SDA）が一九六六年から実施している日本唯一のサインデザイン賞。

●国際社会に貢献するグローバルコモン

グローバル化する社会・経済の中で、世界的な教育研究拠点として、国際的に活躍できる人材の育成を目指す明治大学。二〇〇九年に採択されたグローバル30（大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業）が終了する本年度、海外からの留学生は約千五百人を受け入れ、英語コースの拡充もあり外国人教員比率は七・八％に上昇した。

国際連携機構では、海外からの留学生獲得施策の一つとして、教職員が協力して国内外の進学相談会に参加している。二〇一三年

度は日本語学校（国内）や海外フェアなど、既に五十回を超える相談会を実施した。

●特別対談 村上隆×森川嘉一郎

『芸術×サブカルチャー×場所』

リバティアアカデミーは十一月三十日、鳥取県との連携講座「村上隆×森川嘉一郎特別対談『芸術×サブカルチャー×場所』」を中野キャンパス五階ホールで開催。世界的な現代美術家の村上氏と、国際日本学部の森川准教授が、若手アーティストの育成や中野の街などについて、約一時間半にわたって対談した。

●歌代ゼミが商品企画

ランチパックが今年も元旦に発売開始！

経営学部の歌代豊ゼミが昨年に引き続き、山崎製パンの人気商品「ランチパック」のコラボ商品を開発した。中野キャンパスの学食メニューをモチーフにした「ランチパック・チキンと野菜のレッドカレー」は一月一日より、関東・甲信越・東北地区の量販店、コンビニエンスストアで発売される。販売期間は二月二十八日まで。

●明大スポーツ新聞部

大学新聞コンテストで最優秀賞

体育会明大スポーツ新聞部は十二月十九

日、大学生がつくる優秀なスポーツ新聞に贈られる「東京五大学新聞コンテスト」で最優秀賞の朝日新聞社賞に輝いた。

●書評合戦首都決戦に明大生が出場

大学生・大学院生がお薦めの本を紹介し、観客が一番読みたいと思う本（チャンプ本）を決める書評合戦「ビブリオバトル首都決戦二〇一三」が、十一月二十四日、東京都千代田区のベルサール秋葉原で開催され、本学の小松雄也さん（法2）が決勝進出を決めた。決勝は各グループの最多得票者五人で行われ、惜しくもチャンプ本とはならなかったものの、堂々と熱弁をふるい会場から拍手を浴びた。

●硬式野球部 六大学野球優勝祝贺パレード

体育会硬式野球部が東京六大学野球秋季リーグ戦で三十六回目の優勝を果たしたことを祝して十一月十四日、駿河台キャンパス周辺で祝贺パレードが行われた。大学役職者、野球部員を先頭に、応援団吹奏楽部とバトン・チャアリーディング部が続ぎ、紫紺のうちわを手にした学生らとともに練り歩いた。

●サッカー部 二人がJリーグ加入内定

体育会サッカー部は十一月十二日、駿河台キャンパス紫紺館でJリーグ加入内定選手

合同記者会見を開催。ジュビロ磐田への加入が内定した小川大貴選手（経営4）と、名古屋グランパスへの加入が内定した矢田旭選手（法4）が抱負を語った。

●スケート部 スピードスケート

千葉選手が男子三〇〇kg級で優勝

ジャパンカップスピードスケート競技会第三戦最終日が十二月一日、岩手県営スケート場で開催され、男子三〇〇kg級で体育会スケート部（スピード部門）の千葉将志選手（政経1）が四分八秒二九で優勝した。

●満員のスタンドが別れを惜しむ

現・国立競技場最後のラグビー明早戦

現在の国立競技場で行われる対抗戦としては最後の明早戦となる関東大学ラグビー対抗戦・早稲田大戦が十二月一日に行われ、スタンドを埋めた約四万七千人の観客が伝統の一戦を見守った。

明大は、何度も早大ゴールライン前まで迫るもののトライを決めることができず、後半ロスタイムに早大に二つめのトライを許し、3-15でノーサイド。明大は五位で対抗戦を終えた。

試合後に行われたセレモニー「さよなら国立競技場」には、歌手の松任谷由実さんが登場。戦いを終えた選手達の前で、ラグビーを

テーマにした名曲「ノーサイド」を披露し、国立競技場最後の明早戦を締めくくった。

◆駿台トピックス

●第五回オープンゴルフコンペを開催



本年度二回目になる、第五回オープンゴルフコンペが、十一月十三日、千葉県・我孫子ゴルフ倶楽部で開催されました。新ペリア方式による成績結果は、優勝はベストグロスで回った杉浦伸二会員（昭和四十八年・政経卒）、準優勝は長岡信裕会員（昭和六十年・経営卒）、第三位は中川敏洋会員（昭和四十七年・経営卒）でした。

●プロ野球新コミッションナーに熊崎勝彦氏



当会の会員で、元東京地検特捜部長で弁護士熊崎勝彦氏（昭和四十年・法卒）が、第十三代となる新コミッションナーに選任されました。

任期は本年一月一日より二年間、記者会見では「組織の整備と強化、事業をどのように拡充させるかといったことをスピード感を持って進めていく」と抱負を述べました。

◆十一月例会席者

秋山隆敬、坪昭二、浅井宏、浅倉晴司、阿部倫明、有賀隆治、同ご友人、池田勝也、池田利幸、石川均、石橋良一、石原裕司、泉山和久、伊原敏雄、上西紘治、同ご友人、打出満、内田八郎、大石哲也、大竹夏夫、大原幸男、大前実之、大村託現、小國博明、小倉忠、押田裕介、笠井正弘、勝俣正義、河合秀二郎、河村博、木村健一、日下豊顕、古賀慎一郎、小柴和弘、小島清治、小谷野正道、小山修、根田哲雄、根田吉雄、斉藤弘之、齋藤柳光、佐々木伸一、佐藤和正、佐藤健、佐藤利文、眞田瞳、甚野捷、鈴木紘一、鈴木隆志、関根均、瀬戸正道、宗邦雄、相臺志浩、高橋郁夫、館林精二郎、谷慈義、谷原誠、田村駿、辻嘉右工門、天童美德（代理）、中川敏洋、長瀬幸泰、長堀守弘、中村欣治、中村豊、長吉泉、同ご友人、西尾勝治、西崎誠次郎、西山武夫、二宮充子、二宮忠、野口昌宏、橋口隆二、馬場範夫、濱崎治、原田榮日高憲三、比良田幸雄、福田和彦、同ご友人、富士豊、同ご友人、藤巻伴英、布田安男、堀越孝、眞壁八郎、丸山律夫、水野智史、宮下隆、宮本浩二、向井眞一、室井恵明、安河内究、山口大介、山口政廣、山田晃久、山田朝彦、山本良一、結城康郎、吉村國廣、渡邊智恵子、渡辺紀之、渡邊洋三

【編集後記】

故郷は歳とともに恋しくなるものである。ましてや、私のように「まだ見ぬ」故郷を持つ者は尚更だ。旧満州某所で産まれ、記憶もない乳飲み子のまま引き揚げてきた。実は、ノスタルジアで一度訪ねてみたいと、資料を調べ関係者にお話をうかがっている。そして今、「よくぞ生を受け、よくぞ日本に……」と心底から感じ入り、多くを語らずに旅立った両親に感謝してやまない。そこに半ば秘してきた筆舌に尽くしがたい艱難辛苦があったことを知ったからだ。

その中で、もう一つの故郷ともいえる母校・明治大学と故郷との間に不思議な縁があることに驚かされ、また感謝している。明治大学教授だった故・丸山邦雄さんという方がおられる。氏は終戦直後、命を賭して満州に置き去りにされた百七十万人余の日本人救済を要請して奔走し、ついには百五万人の引き揚げを成功させた。昭和五年に明治大学法科を卒業、米國留学などの後に満州で経済人となり、敗戦にも怯むことなく、財を擲って閉ざされた母國に密航までして同胞に報いた「義」の人だ。丸山先生がいらっしゃらなければ、今の私などは存在しないかもしれない。まさしく恩人である。

過日、私が昭和二十一年に「初めての」祖國に向かい脱出した中国の港・葫蘆（コロ）島に記念碑が建った。除幕式に大先達の村山富市先生が立ち会われたと聞く。深まる縁に、故郷への思いが一層募っている。

（齋藤 柳光）